

国家鎮護

管家守護

吉祥院(吉祥天女社)



大願成就



福德招来

天空から手を差し伸べられる
吉祥天女さま

画 南 久美子
(日本漫画家協会会員)

元気の出る夢かなう守



吉祥天女ストラップ
夢と希望が湧いてくる



人を佳きに導く

吉祥院のお札



願いがかない幸せになる

御朱印帳



吉祥天女さま

幸せよぶ 水玉すず



吉祥水のしずく



駐車場有ります

但し、4月25日と8月25日は大祭による緑日のため境内に駐車はできません。

市バス『吉祥院天満宮前』徒歩3分
『千本十条』から西600m
『西大路九条』から南600m
J R『西大路駅』から南へ1km

吉祥院天満宮社務所

〒601-8331

京都市南区吉祥院政所町3(西大路十条西入ル北)

TEL.075-691-5303 FAX.075-691-2205

郵便振替 00920-9-319639

福德招来 大願成就

吉祥院(吉祥天女社)

お祀りしている
おかた 吉祥天女さま

菅原清公卿 菅原是善卿
伝教大師 孔子さま

延暦二十三年(八〇四)菅原道真公の祖父清公卿が遣唐使として唐へ向かう途中、海上にわかには暴風起り船が転覆しかけた時、同船していた僧最澄と共に吉祥天女に平安を祈ったところ、天女たちまち空中に現われ風雨静まって無事使節の任を果たした。この感激と喜びを胸に帰朝後吉祥天女の尊像を自ら刻まれ、大同三年(八〇八)庭上に一堂を建立して安置し、伝教大師にはかつて開眼供養が行なわれた。ここに吉祥院と号して国家鎮護の祈願所・菅家守護の本尊とされた。この吉祥院において清公卿は毎年十月に吉祥院悔過を修せられ、是善卿は清公卿の命日の十月十七日に毎

年修せられた。道真公は元慶五年(八八一)十月に是善卿の一周忌追福のため、多くの僧侶を招いて法華八講が行なわれた。また、寛平六年(八九四)九月には菅公の門徒の人たちがここに集まって道真公五十歳の賀の宴が修せられた。

応仁の乱により京中が戦火に遭い建物が悉く焼かれる状況の中、吉祥天尊像の焼失を恐れて土中に埋め、新たに仮の天女像を刻み本堂に安置し開眼供養を修した。世の中鎮静とともに本尊を掘り出しもと通り安置したが、いまも土の香が残っているようである。

吉祥院の建物は幾度となく焼失し、その度に淨財を集めて再建をおこない、現在の吉祥天女社は嘉永三年(一八五〇)に再建された。

近年では明治三十五年と昭和三年に大修理を行なうとともに、昭和の初めから昭和三十年頃にかけては、大般若経六〇〇巻の転読法会が催された。

創建の歴史は天満宮より百二十年余も古く、平成二十年(二〇〇八)には創建千二百年祭を斎行した。また五十五年ぶりに大般若経六百巻転読を奉修し、吉祥天女像の特別開眼を行なった。記念事業として吉祥天女社の大改修工事を地元をはじめ多くの人々の支援を得て行なった。



大同三年(808) 菅原清公卿邸内にお堂を建て、吉祥天尊像を安置し、最澄さま開眼供養を修す。



孔子 中国・春秋時代の学者・思想家・儒教の開祖、仁を理想とする道徳主義を説く。
菅原清公卿、唐より孔子像の画を持ち帰り、菅家学問所文章院にまつた
木造 倚像 150cm



平成20年から毎年10月に奉修されている
大般若経六百巻転読



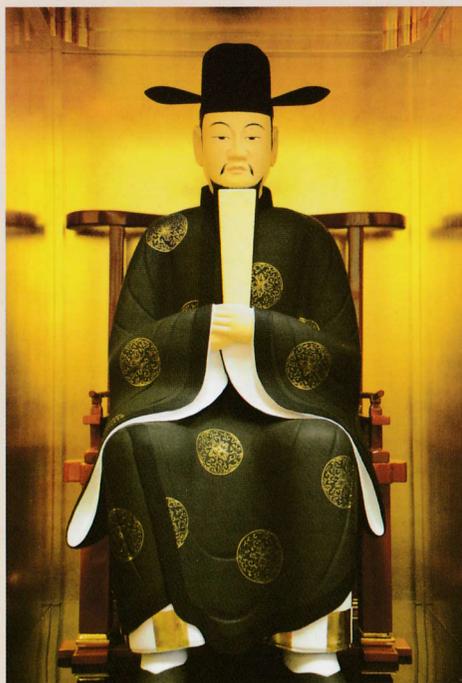
菅原是善卿の一周忌追福のため、道真公は多くの僧侶を招いて、法華八講が行われた。
吉祥院天満宮縁起(第三幅)



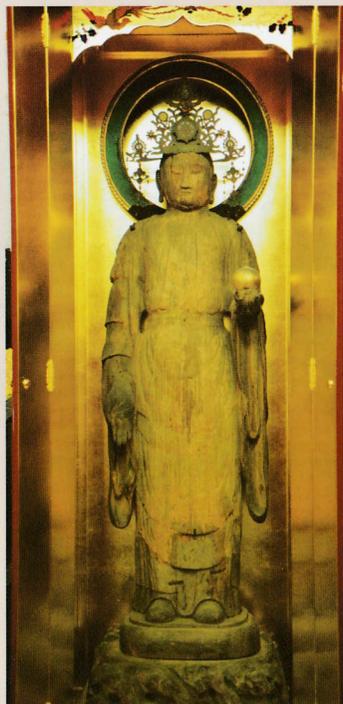
吉祥天女さま天空に現われ、風雨静まり、菅原清公卿無事入唐される。
吉祥院天満宮縁起(第一幅)



菅原清公卿、遣唐使として渡航中、暴風に遭い、同船の最澄さま 風雨静まるを祈る。
吉祥院天満宮縁起(第一幅)



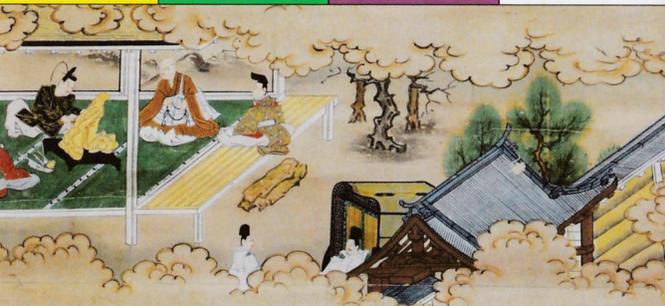
菅原是善卿 (812-880) 平安初期の漢学者・文章博士
菅原道真公の父・参議従三位
木造 倚像 120cm



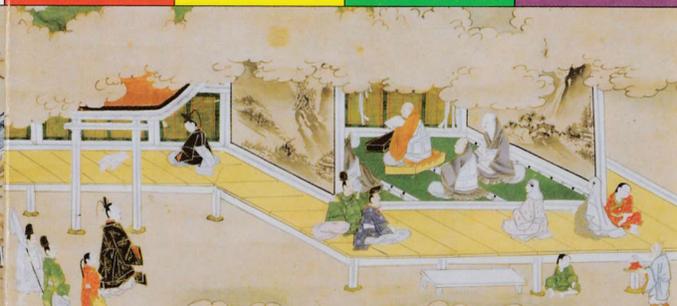
吉祥天女 ヒンドゥ教の女神 母は鬼子母神、毘沙門天の妻という。菅原清公卿の作と伝える。
応仁の乱の時、戦火をまぬがれるため土中に埋めたとされる。彩色のあとがかすかに残っている。
木造 立像 130cm



菅原清公卿(770-842) 平安初期の漢学者・文章博士
804年最澄・空海と入唐、菅原道真公の祖父。従三位
邸内に学問所文章院を建て孔子をまつた。
木造 坐像55cm



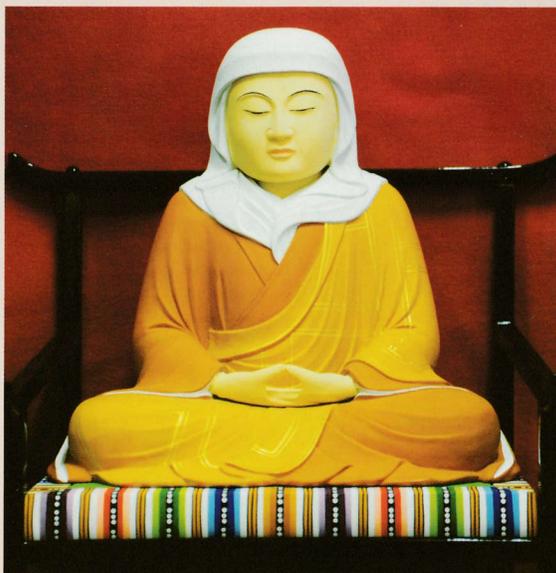
唐より帰朝後の菅原清公卿が吉祥天尊像を刻するを見守る最澄さま。
吉祥院天満宮縁起(第一幅)



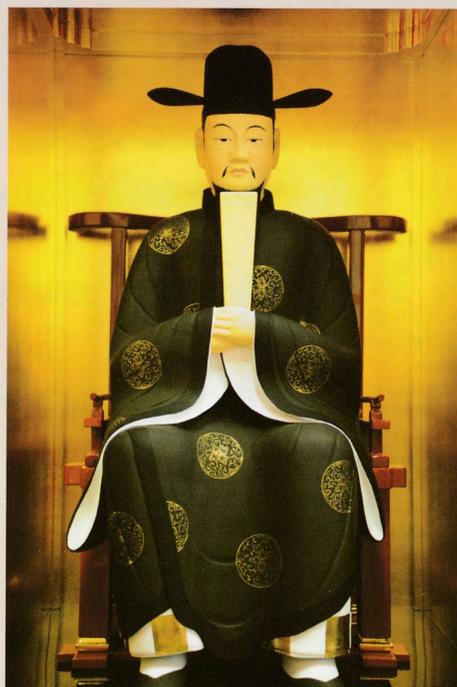
菅原是善卿の一周忌追福のため、道真公は多くの僧侶を招いて、法華八講が行われた。
吉祥院天満宮縁起(第三幅)



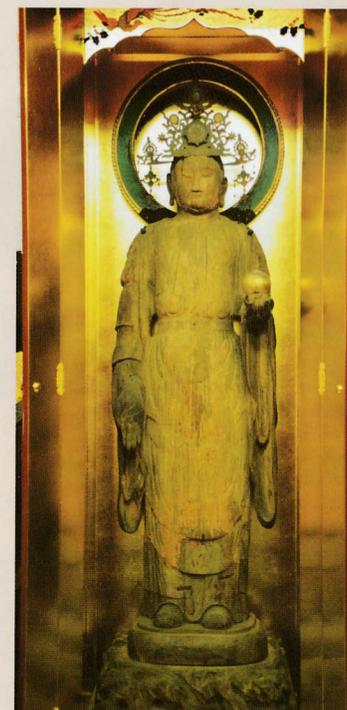
吉祥天女さま天空に現われ、風雨静まり、菅原清公卿無事入唐される。
吉祥院天満宮縁起(第一幅)



最澄 (766-822) 平安初期の僧・天台宗の開祖 おくりな伝教大師 804年空海とともに入唐。翌年帰朝して天台宗を開く。
木造 坐像 45cm



菅原是善卿 (812-880) 平安初期の漢学者・文章博士
菅原道真公の父・参議従三位
木造 倚像 120cm



吉祥天女 ヒンドウ教の女神 母は鬼子母神、毘沙門天の妻という。菅原清公卿の作と伝える。応仁の乱の時、戦火をまぬがれるため土中に埋めたとされる。彩色のあとがかすかに残っている。
木造 立像 130cm